

みずえだに新聞

Vol. 13
2015年10月
秋号



院長のささやき

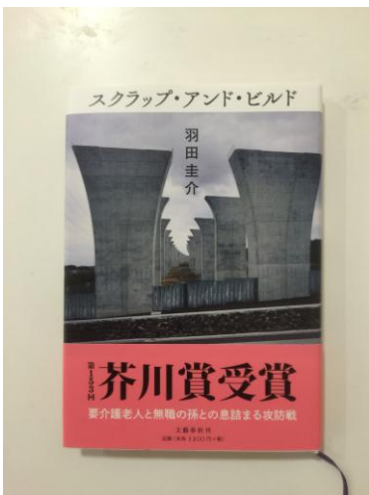
読書の秋

朝晩はだいぶひんやりとしてきた今日この頃ですが、みなさんいかがお過ごしでしょうか？秋と言えば、「食欲の秋」「スポーツの秋」「芸術の秋」「読書の秋」など様々な事をするに適した季節であり、美味しいものもたくさん食卓に色を添えてくれます。そこで今回はその中でも読書に焦点を当ててお話ししたいと思います。本を読むことで、人は色んな事を学ぶことが出来ます。単純に漢字を覚えたり、言葉の使い方を覚えたり、そして作者の意図を感じ取ったり、また気持ちに優雅な充足感を得られたりと、様々な恩恵を受けることが出来るのが読書ではないかと思えます。

私は幼少の頃は読書などとは無関係な位置取りをしていました。何よりも外で野山を駆け巡って遊ぶのが大好きで、スポーツに明け暮れたりと室内でじつと本を読むなど耐えられない性格でしたから。そんな私が開眼したのは高校に進学してからの事でした。カルチャーショックです。田舎の山の中でほとんど勉強もせず育った中学まででしたが、高校に進み、色んな地方から集まった友達と交わる中で、いかに自分が「井の中の蛙」状態であったかということに気付き始めたのです。いかに今までも勉強してなかったのか、成績にしてもその差は歴然でした。そこで私は高校時代は死に物狂いで勉強しました。その中で学んだのが、本を読むことの重要性だったのです。「読解力」はすべての教科に通ずる重要な要素であることに気付き、それを補ってくれるのは「本を読む事」。それから暇を見つけては本を読むようになりました。実際、勉強以外は許されないうような下宿生活を送っていましたので、実は「読書」に逃げていたのかも知れません。その方がよっぽど楽しいですからね。それからと言うもの、忙しい中

にもそのような時間を極力作るようにしています。職業柄、専門書はかなりの頻度で読んでいるのですが、「歯」とは関係ない分野の本を読む事が私にとつての「読書」です。

そして今回、みずえだに歯科では「読書月間」と称しまして、スタッフのみんなにも本を読んで、その感想を書いてもらいました。日々忙しい中、なかなかそのような機会がないため、半ば強制的に私からお願いをしたところ、みんな快く承諾し、原稿を寄せてくれました。このあとそれらを紹介していきたいと思えますので、乞うご期待。という事で、是非皆さんもこれを機に本を手にとって下さい。素晴らしい本との出会いがあるかも知れませんよ。



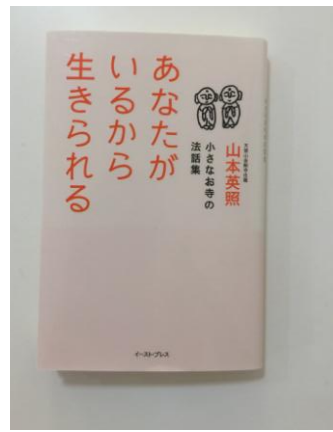
院長
水枝谷 浩己
『スクラップ・アンド・ビルド』

芥川賞作品はなるべくチェックしようと思っただけなのですが、今回はお笑い芸人「ピース」の又吉著「火花」が大変話題になりました。これも読みましたが、とても芸人さんとは思えない素晴らしい作品でした。しかし今回はW受賞という事で、もう一方のあまり話題にならない方を紹介したいと思います。羽田圭介著「スクラップ・アンド・ビルド」。会社を辞め、資格試験勉強中の主人公が祖父を介護していく中で、祖父は、常に「死にたい」と言っているのに、生への強い執着を持っている。主人公は、その希望を叶えるために、過剰な介護で祖父の動きを奪う。それは第三者から見るととても献身的。母は祖父に対し、「楽ばっかりしている」と寝たきりになるよ」と身体能力が衰えないよう、出来る事は自分で出来るように汚い言葉で罵る。二人の立場は、どう接することが最良の介護なのかを読者に問う。

歯科衛生士

池増 奈津美

『あなたがいるから生きられる』



私がこの本を選んだ理由は、主人が他界して以降、お寺に足を運びお坊さんの法話を聞く事が多くなったからです。この本は福岡の小さなお寺の住職、山本英照さんの法話がおもしろおかしく書かれており、しかし何か考えさせられるものがあります。「ちよつと聞いていきなされ。この世とはご縁と絆でできているんですばい。あなたの周りにはいつでも素敵なご縁と絆が待つとります。」私がこうしてここに居るのもご先祖様のおかげであり、この職場で働いているのも何かのご縁があつ

たからだと思います。また人間だけが縁で結ばれているわけでもないようです。自然界全て、縁が揃って成立っているそうです。だから全ての物に感謝の心を持って生きて行かなければいけないと思えました。夜寝て、朝目覚める。そんな当たり前が本当はとても重要なことであり、一日一日をいや一分一秒を大切に、何事にも感謝の気持ちを持って生きて行かなければと思う次第でした。



歯科助手

本庄 利恵

『夏の庭』



少年三人のうちの祖母の死をきっかけに少年たちは「死」について考え始めました。段々、死体ってどんなんだろう・・・と興味を持ち、近所にもうすぐ死ぬんじゃないかと噂されている老人を探偵ごっこと称して観察が始まります。この本を選んだのは私には九十くらいまで教員として働いていた祖父がいます。しかし、趣味を持っていなかった祖父は、日に日に衰え、今では自分で食事をすることすら出来なくなってきました。そんな中、この本の「老人」と「死」に関心を持ち読むことにしました。探偵ごっこの「観察」という視点から「人」として少年の変化に感動を受け、老人と少年たちの深い交流の

中、突然の死をどう受け止め、今後どう影響したのか興味を持ち、これから自分も体験するであろう身近な人の死について考えさせられました。居て当たり前前の存在がなくなった時に、思い出があり過ぎて、忘れようとしても忘れられず・・・何かのきっかけで思い出し、その時暗くならずに楽しい思い出になるように乗り切って行きたいです。残り少ない祖父との生活を、思いっきり大切にしたいと思っています。またこの本を読まれた方にも、身近な死について考えて頂けたらと思います。



歯科助手

新屋 萌

『ディズニー そうじの神様が教えてくれたこと』
神様が教えてくれたこと』



ディズニーから数多くのビジネス本が出版されている中、本の帯に「この床に落ちたポップコーンを君たちは食べられるかい？」という文句に目が留まりました。この問いかけに私は、何か惹きつけられるものを感じ、この本を読みたいと思いました。

この本はディズニーランドの清掃部隊「カストーディアル」として働く「キャスト」清掃スタッフ達が繰り広げる感動物語です。「掃除」に対する概念を覆されました。また仕事に対する姿勢、仕事やサービスの基本、そしてその原点となる真の思いやりに気付く事が出来ます。仕

事へのやりがいや失っている人、もつと楽しく仕事をした人、これから仕事をする学生さんにも読んで欲しい一冊です。自分の中で何かに挑戦する時、限界を決めてしまつてはいけないという事、夢は諦めなければ叶う、誰も見えない所での働きの尊さを教えられました。夢を持ち続ける事の大切さ、ディズニーの掃除の世界に秘められた「仕事で人を幸せにするヒント」が見つけられるかも知れません。ディズニーの不思議な掃除の世界へ引き込まれるように一気に読み切つてしまいました。そしてディズニーランドへ行きたくなる本です。



受付・事務

今掛 真菜

『ニューヨークの女性の「強く美しく」生きる方法』



本屋さんで本がたくさん並んでいる中で、パッと目に留まったのがこの表紙でした。文字よりも女性の写真に目が行き、単純に綺麗な人だなあと本を手に取りました。その表情が明るくて生き生きとした目で、誰もが憧れとする人という感じがして、私はどんな人物なんだろうと興味を持ちました。また見出しの所に「私は私」と書かれていて、この女性が伝えたい事はなんだろう、どんな人生を送っているのだろう、とその言葉を見た後、さらに読んでみたい気持ちが深まりました。

この本の著者、エリカさんは世界一成功する事が難しいと言われるニューヨークで、夢の実現に向け壁を乗り越えながら歩んでいる女性企業家です。この本の最初に「自分の幸せとはどんな事ですか？」という問

いかけがありました。エリカさんは「私たちは幸せの定義を決めたがりません。でも実際は定義なんてありません。幸せも不幸も、その人の心の持ち方次第なのです。」とありました。私はこの言葉がとても心に響きました。些細な事でも幸せを感じる場面は人それぞれです。この本をきっかけに私は色々な場面で興味を持ったものをどんどん見つけて行こうと感じました。また「自尊心を磨く」という言葉も心に残ったものの一つです。失敗を経験して、その失敗にも良悪があるので、そこを区別出来る人間へと成長し、その挑戦から学んだものを自信に繋げていく事が大切だという事に気付かされました。これから自分磨きをしたいという方にピッタリの本でした。

歯科衛生士

大重 芳代

『世界から猫が消えたなら』



以前何気なく新聞を読んでいて、本の紹介コーナーに載っていた。本のあらすじが少しだけ書いてあり、「何かを得るためには何かを失わなくてはならない」との言葉がずっと気になっていました。今回本を選ぶにあたり、その言葉を思い出し選びました。

余命わずかと宣告された主人公。目の前に悪魔が現れ、「大切なものを一つ消すごとに一日の命」を貰う。主人公は電話、映画、時間と消していく。「何かを得るためには何かを失うしかない。しかし主人公は最後に何かを奪って生きるのもつと辛い」という事に気付く。自分なら何を引き換えに命を優先するのか。ふと気に留めれば気付ける事であっても、たくさんもの

事で溢れる生活の中では見失ってしまう。小さな事、何気ない事、どうでもいい事、物なんてないんだなあという事を改めて認識させられました。明日、自分が死を宣告されたら・・・とは考えづらいですが、自分を取り巻く人々や世界、毎日を今までもよりもっと大切にしたいと思えました。重たい内容ですが、文章は軽やかで少し笑ってしまう所もあったり、思わず涙があふれてしまう所もあったり。毎日を慌ただしく送っている人には、ふと立ち止まって考えられる本だと思います。



受付・事務

大脇 希真

『やりたいことは、今すぐにやれ!』

『やりたいことは、今すぐにやれ!』



私は小さい頃からずっと叶えたい夢があります。早く行動に移さなければと頭では分かっているのですが、実際はずっとやれずにいました。どうしたら夢を叶える事が出来るのか?という思いからこの本を選びました。

この本を読んで私は経験する事の大切さ。チャレンジする事の大切さを学ぶ事が出来ました。またこの本は「したい事はやってみよう!」という気持ちになれる本です。本の中にもありましたが、自分の夢を現実にするには「自分の心に正直になる事」損得や他人の目、やれるかどうかは気にせず、「知りた

い」「やってみたい」というワクワクする自分の気持ちを大切にして、少しでも夢に近づけるよう、日々を大事に、考えながら行動していきたいと思います。①夢を描く事②ワクワクする事③動く事この三つが夢を叶えるための大前提との事。今夢がある方、新しい事にチャレンジしたい方にはぜひ読んで頂きたい一冊です。



歯科衛生士

松田 梨菜

『ディズニー ありがとうの神様が教えてくれたこと』



この本を選んだ理由は、少し前にこの本の事を同僚が教えてくれて知っていたという事と、実際にパラパラとめくってみて、読み易そうと思ったからです。普段から本を読む習慣が全くなかったのですが、思い返してみれば一冊の本を読み切ったのはこの本が初めてだったと思います。集中して読めば、意外にすらすらと読めるという事と、一番驚いたのは自分が本を読んで感動したという事です。涙をこぼすまではなかったものの、じわっとくるものがありました。ディズニーランドの主役、いわゆるミッキーマウス達の物語ではなく、清掃員や受付のお姉さんなどスタッフの方々の物語で、実話だったのでより感動しました。大人になってからディズニーランドに行った事がないので、是非時間があつたら行こうと思いました。

歯科衛生士

西野 佳奈

『傘をもたない蟻たちは』



本を探している時に目にとまり、一度でいいからNEWSの加藤シゲアキの本を読んでみたいと思ったのと、多忙な芸能生活を送る中、彼が思う「生きづらさ」に触れ、もつと知りたいと思いついた本を選びました。六編の短編集という事で一編一編がとても読みやすかったが、表現が独特で書いてある言葉を飲み込むのに少し時間がかかってしまう所がありました。六編の中にはサラリーマンを脱いだ(脱サラした)主人公の転落劇を描いたものや二人の男子中学生の「同性愛」という自分の「常識」とはかけ離れたものに出逢ってしまい、自分自身の事も良く分らない時期の葛藤を描いたものなど、一つ一つの作品にちゃんとした世界観があり、しかも短編集なので読書に飽きやすい人、本が苦手な人でも無理せず読めると思います。

読書の秋に続き、実りの秋の情報です。写真は実家(根占)の田んぼの稲刈りの様子です。今年も餅つき大会用のもち米は豊作でした。両親が丹精込めて育ててくれました。両親は餅つき大会を毎年楽しみにして、そのために田舎で米を作る事が生甲斐だと言っています。もう高齢ではありますが、「張り合いがあつていい事だ。」と常々と言っております。

ここで告知ですが、今年も

12月19日(土)

に行きます。皆さん、是非その日は参加して下さいね。



**実りの秋
もち米
の収穫**

患者さんの声

もりお やすよ

森尾 泰代さん

主婦

我が家のホームドクター

長男の入学前健診から家族全員お世話になっていきます。私がいつも願うことは、日々幸せであること。そのためには健康であることが欠かせません。また食事を美味しくいただけることも大切だと思います。ですから、お口の健康＝歯の健康がとても重要だと感じています。私が生きている頃は夏休み中に虫歯になってから歯科医院へ行くのが当たり前でした。現在のように予防するという考え方はなかった様です。ですから、あの虫歯の痛みも体験しました。治療が怖くて泣くと、「帰りなさい！」と言われて帰ったこともあります。現在子育て中ですが、毎回の歯磨き指導、定期検診のおかげで予防するという考え方が生活の中に定着してきました。また先生方やスタッフの皆さんがいつも親切で、安心し



て通うことが出来ます。何と有難いことでしょうか。昔を知る私としては夢の様です。

さて我が家の長男が反対咬合でしたので、来院の度に先生に相談していただきました。何とか表面的には改善しましたが将来の成長を考え矯正治療専門の先生を紹介して頂きました。この事も検査してお話を聞くことにより、今何が必要か、タイミングもあることなど教えて頂きました。表面からわからない事も多く専門の先生との出会いにより、質のいい睡眠、姿勢など成長を左右することも多い事を知り、親子で頑張る事を決めました。すると日々の歯磨きがより大切になってきましたので、月1回の定期検診は欠かせません。毎日の事です。ですので本人も疎かになっていた



夏休み、お疲れ様！

焼肉大会

忙しかった夏休みを終え、みんなの労をねぎらう意味で、焼肉食べに行きました。お腹いっぱいでもう動けないようです。中央駅西口の「焼肉薩摩ホルモン舗」にお世話になりました。

編集後記



今回は、スタッフのみんなの読書感想文を中心にした紙面になりました。原稿の文字数の関係で余白なども多く、少し体裁が悪いですが、みんな一生懸命書いてくれましたので是非お目通ししてみてください。

なお、この秋号は十月一日に発行の予定でしたが、記事の内容により若干遅れてしまいました事をここにお詫び申し上げます。

「患者さんの声」の掲載につきまして是非皆様のご協力、お願い致します。